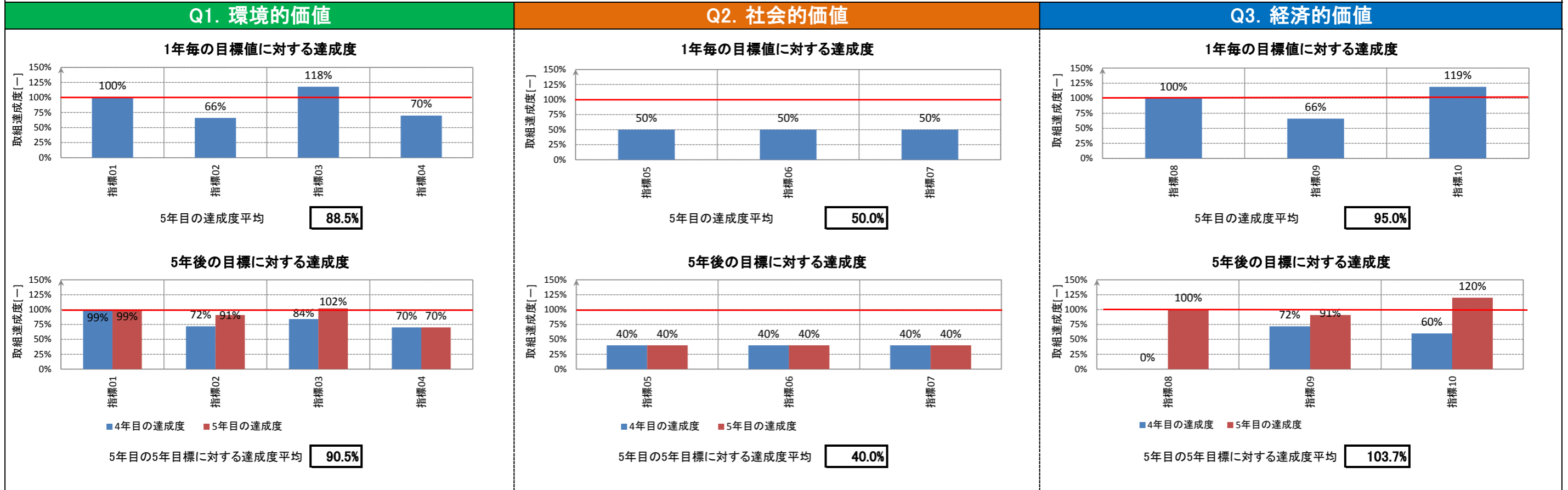


<p>宮城県 岩沼市</p>	人口: 44,289人、17,377世帯(平成29年3月末現在) 就業人口: 21,116人(平成26年度)、市内GDP: 2,139億円(平成26年度) 面積: 60.45km ² (うち森林面積14.11km ²)
----------------	--

取組進捗評価結果(都市による自主評価に基づく達成度)



指標番号	指標名	平成28年度の特記事項(国際展開・都市間連携等)	5年間の取組総括
指標01	沿岸部から市東部へのエココンパクトシティへの集団移転	なし	初年度に掲げた目標を達成するために、フォローアップによって進捗管理・軌道の修正を図りつつ各事業の推進を行なったものの、結果として各取組の達成度合いに大きな差が生じた。まず、エココンパクトシティの形成や千年希望の丘の造成及びがれきの有効活用並びにメガソーラー事業の事業者の誘致及び売電については、5年間を通して確実に進捗し、東日本大震災による被災者への支援はもとより、経済的な効果を創出した事業であると評価できる。次に、健康・医療産業集積地の整備に関しては、当初の土地利用に限定せず、視野を広げた利活用が図れるよう協議・調整を図っており、計画期間中に客観的な達成基準を超えることは出来なかったものの、一歩ずつ確実に進捗はしているものと評価する。また、医療福祉情報ネットワークによる予防医学推進事業に関しては、情報収集及び導入に向けた検討を幾度も行なったものの実現には至らなかったため、引き続き慎重に検討を行なうべき必要性を感じている。なお、次世代アグリビジネスの展開においては、電気自動車用充電ステーションや太陽光発電施設の整備等においては進捗が見受けられたものの、食物工場等の誘致に関しては、被災した沿岸部の土地利用の方向性を検討するうえで引き続き情報収集等に努める。本計画は市の復興計画を基としているものであり、復興計画終了年度である平成29年度以前に計画は終了したものの、引き続き復興と各種の取組を市全体で推進させることを総括とする。
指標02	がれきを活用した「千年希望の丘」の造成(基)		
指標03	がれきの有効利用(m ²)		
指標04	メガソーラー事業者の誘致及び売電、EVバスの導入エココンパクトシティ内への非常時の電力供給		
指標05	植物工場等の次世代アグリビジネスによる被災者の雇用創出		
指標06	自然共生・国際医療産業都市の整備に向けた企業誘致		
指標07	エココンパクトシティに整備された福祉施設や高齢者住宅と提携した医療機関等とのネットワークを構築させる。		
指標08	太陽光発電設備によるエココンパクトシティの推進を図る中で経済的効果を創出する		
指標09	がれきを活用した「千年希望の丘」の造成(基)		
指標10	メガソーラー事業に係る売電収入		
		平成28年度の取組総括	委員からの5年間の取組全体に関する評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・エココンパクトシティの形成に関しては、防災集団移転を希望する世帯の移転が概ね完了したが、集団移転対象者の方々に最後の募集を行い、対象者の再建完了を引き続き目指す。 ・千年希望の丘の造成事業に関しては、丘2基を復興交付金で築造した。(藤倉根地区、新浜地区)また、長谷釜地区において5月27日に市内外より約4,000人が参加し約3万本の植樹を行った。 ・エネルギーマネジメントシステムの構築に係るメガソーラーについては、平成27年4月に売電を開始し、その後順調に稼働している。 ・健康・医療産業集積地の整備に関しては、地権者との話し合いを継続しているものの、医療産業の誘致が厳しい現状であることから、医療産業に限定しない土地利用を図る方向で進め、開発整備に向けた関係機関との協議・調整を進めている。 ・医療福祉情報ネットワークによる予防医学推進事業に関しては、エココンパクトシティ内にICTを活用した医療福祉情報ネットワークを構築することについて2014年度に導入を見送っており、その後も検討を重ねているが前進には至っていない。将来的に導入の機運が高まった際には、速やかに構築を検討していきたい。 ・次世代アグリビジネスの展開においては、実証研究を継続している電気自動車用充電ステーションについて研究を継続し、低コスト・省エネルギーの経営に向けて、土地利用型農業での先端技術研究へ協力を行った。また、太陽光発電施設を整備し、土地改良区と連携し排水機場の運営費用に充当した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エココンパクトシティ、千年希望の丘、メガソーラーなど、特徴ある事業を着実に展開したことは評価される。今後の各論を進めていくうえでの基盤がまず固まったといえる。 ○6つの集落が集住する玉浦西地区の新たなまちづくりの取組は画期的であり、合意形成への導き方のノウハウなどは、他の自治体と共有していただきたい。 ○アグリビジネスや空港横への企業誘致事業など、企業誘致が今後の課題であるが、周辺のステークホルダーと連携し、実現に向けた協議を進めてほしい。

愛と希望の復興

宮城県
岩沼市

取組の背景・地域特性

・江戸時代に築かれた貞山運河と居久根（いぐね）に囲まれた歴史的な農村風景を活かすとともに、市民が安心して、豊かな生活ができるエココンパクトシティいわぬまを目指し、緊急時の避難拠点などとして活用可能な千年希望の丘を造成し、人と環境に優しく、そして災害に強いまちづくりを行なう。

環境

○エココンパクトシティの形成

- ・集団移転を機に点在していた集落をコンパクト化し、コミュニティを再構築
- ・集団移転エリアに自然エネルギーを導入

○千年希望の丘の造成

- ・津波の威力を減じる手法等として丘を造成し、震災がれきの再生活用を図る

○自然エネルギーによるエネルギーマネジメントシステムの構築

- ・メガソーラー事業者を公募・選定



▲被災地である相野釜地区（約43ha）のメガソーラーを設置（いわぬま臨空メガソーラー㈱）



▲千年希望の丘及び相野釜公園

主な取組内容

社会

○次世代アグリビジネスの展開

- ・電気自動車用充電ステーションの整備を行い、市内の農業生産法人等に電気自動車を貸与し、農業エネルギーマネジメントの実証実験を行なっている。



経済

○いわぬま臨空メガソーラー㈱（丸紅㈱完全子会社）による太陽光発電に係る売電

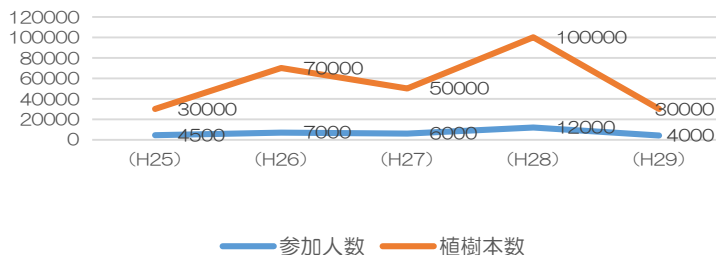
- ・事業者による個人所有地の長期借り上げを通じて、被災者支援の側面も担っている。
- 災害公営住宅に設置されている太陽光発電による売電（平成28年度）
 - ・年間発電量 約1GWh
 - ・売電金額 約3,400万円



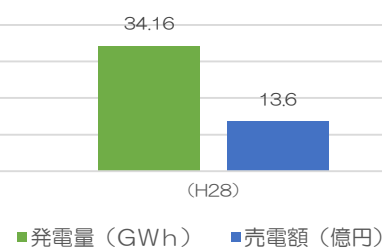
▲災害公営住宅にソーラーパネルを設置（設置戸数：149戸）

主な成果

「千年希望の丘」植樹祭参加者及び植樹本数



メガソーラー発電量及び売電額



ポイント

- ・千年希望の丘の造成を行い、その園路に植樹を行なった。（平成25年より平成29年まで計5回開催。累計約3万3,500人が参加の上、累計約28万本を植樹）
- ・被災前は沿岸6地区だったものが、玉浦西地区にコンパクトシティとして生まれ変わり、住民主体によるまちづくりが行われた。
- ・千年希望の丘の高さは、津波の遡上高8m+余裕高3mの計11mとして設計している。